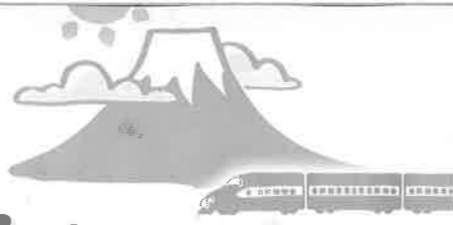




ちょっと懇いませんか。

江口裕之の

# 日本のことを伝えよう 第4回



今回は、日本の伝統的な演劇について取り上げます。歌舞伎や能楽、文楽などの起源を振り返ってみましょう。

今回のお題  
伝統演劇

## 1. In Noh theater, why do the principal actors wear masks?

There are two types of plays in Noh theater, Genzai-Noh and Mugen-Noh. Among the roughly 250 plays performed today, most belong to the latter type. The basic theme of Mugen-Noh is encounters with supernatural beings—including gods, spirits of the deceased, and demons—through which the audience receives symbolic messages. Wearing a mask is a way for the principal actors to transform themselves into those supernatural beings.

## 2. Why are Noh and Kyogen often performed together? How are they different?

Noh and Kyogen developed together from ancient performing arts called *dengaku*, ritualistic dance dedicated to Shinto gods, and *sarugaku*, street performance. Their serious elements evolved into Noh, and their entertaining aspects evolved into Kyogen. Noh and Kyogen came under the protection of samurai warriors in the 14th century, and later came to be performed together as a set in which they complement each other, with Noh delivering divine messages and Kyogen dealing with entertaining, comical stories.

## 3. In Bunraku, why does the main puppeteer often perform while showing his face?

It is called *de-zukai*. The practice started as part of the performance. Operating Bunraku puppets requires a high degree of skill, and through that, the puppet and the puppeteers become one to act out the plays. In other words, the puppet is the puppeteers' other self. It may sound paradoxical, but for the viewers, the face revealed beside the puppet adds reality to the movement of the puppet, giving it more emotional impact.

## 4. Why are there no female performers in Kabuki?

Kabuki started as a religious dance performed by women in the early 17th century. However, after prostitutes started to join the performances, the government prohibited women from performing on stage. Later, to fill women's positions in the play, male actors started to play female roles, which made Kabuki quite unique. They are called *onna-gata* and are popular for their ability to impersonate woman accurately.

## 1. 能ではどうして面を着けるの?

能には、神や霊や鬼などの超自然物を主人公とする夢幻能と、現実世界の出来事を描く現在能があり、面が用いられるのは夢幻能です。現在演じられている能の作品は250曲ほどありますが、そのほとんどが夢幻能です。夢幻能の基本パターンは、生身の人間を演じるワキ（助演者）が、面を着けて超自然物を演じるシテ（主演者）との遭遇を通じて、霊界のメッセージを受け取るというものです。西洋では、面は人の素顔を隠すためのもの、というイメージがありますが、日本では、その面が表す自分以外の何かに変身するという意味合いがあります。つまり、シテが面を付けるのは、霊的存在に自ら変身し、霊界のメッセージを人間界に送るためなのです。一方、ワキは観客の代表者が舞台に送り込まれたような存在です。ワキを通じて観客全体が霊界のメッセージを受け取り、共有するという意味合いがあります。その意味では能は演劇よりも儀式に近いと言えるかもしれません。

## 3. 文楽で人形遣いが顔を見せるのはなぜ?

文楽（=人形浄瑠璃）は、江戸時代の元禄文化期に、浄瑠璃語りの竹本義太夫が脚本家の近松門左衛門とコンビを組んで、大坂に竹本座という芝居小屋を開き、大人気となりました。当初は人形遣いも一体につき1人で、人形も小型でしたが、ほかにも芝居小屋ができて人気争いが始まると、人形が大型化し、それに伴い人形遣いも一体につき3人になります。やがて、人形遣いそのものが観客の興味・賞賛の対象となり、演出の一環として人形遣いが顔を隠さない「出遣い」が始まりました。人形遣いがもろに顔を見せていると人形に集中できないと言う観客もいますので、ここは説明が必要でしょう。人形遣いには高度な技術が求められ、その技術が頂点に達すると人形と人形遣いは一心同体となります。つまり、人形は人形遣いの分身となるわけです。逆説に聞こえるかもしれませんが、観客にとっては人形遣いの顔が見えることで、人形の動きに迫真性が加わり心に訴える力が強くなるのです。

いかがでしたか。芸術の秋。日本の芸能の歴史を感じながら、その芸術に触れてみてはいかがでしょうか。今回は「行事・慣行」について取り上げましょう。

## 2. 能と狂言はなぜ一緒に演じられることが多いの? 両者はどう違うの?

能や狂言の原型は、平安時代に発達した田楽や猿楽です。田楽は田植えのときに田の神を祭って歌い踊った芸、猿楽は物まねや滑稽な言葉芸を中心とする大道芸で、両者とも職業芸能となっていく。能は両者の真面目な要素が集大成していったもの、狂言は両者の遊興的・娯楽的な側面が集大成されていったものと言えるでしょう。14世紀末、室町幕府三代将軍足利義満が能の演出に感銘を受けて庇護して以来、能・狂言共に武士の間で人気となります。能が霊界のメッセージを受け取るという内容であるのに対し、狂言は庶民の観点から上流階級を滑稽に、時には揶揄を込めて描くもので、両者は相互補完的な芸能として共に発達していきました。江戸時代になると、能5曲とその間に狂言4曲を入れる「五番立」と呼ばれる舞台編成が正式なものとなりましたが、それではあまりに時間がかかるために、現在では能2曲とその間に狂言1曲という構成の能公演が一般的になっています。

## 4. 歌舞伎にはどうして女性の役者がいないの?

歌舞伎は17世紀初めに<sup>いづものおくに</sup>出雲阿国という出雲大社の巫女が始めた歌舞伎踊（阿国歌舞伎）が起源です。阿国は勧進のために全国を巡業したそうですが、特に京都で人気となり、阿国をまねた女歌舞伎の集団が各地に現れ、はやりとなります。やがてこれに遊女が加わって客引きをするようになると、モラルの乱れを案じた幕府は女性が舞台で演じることを禁止してしまいます。代わって、若い男子を使った「若衆歌舞伎」が登場しますが、当時は男性の風習も濃く、これまたモラル低下の懸念から禁止され、結果として唯一許されたのは、成人男性のみで筋骨き物を演じる「野郎歌舞伎」という形態でした。しかし、登場人物が男性ばかりでは色気がありません。そこで、男性が女性の役を演じる「女形」が登場し、幕府の制限を乗り越えて様々な筋骨きを扱うことができるようになったわけです。



\*著者プロフィール\*

江口裕之 CEL 英語ソリューションズ 最高教育責任者

1957年長崎県生まれ。国立北九州高専化学工学科卒業後、プロのミュージシャンとして全国で演奏活動を展開後、通訳・翻訳家に転身。1989年から一貫して通訳案内士の育成に携わる。2001年、東京にCEL 英語ソリューションズを設立。2009年よりNHK Eテレ英語教育番組「トラボジャパン」講師。著書に『新・英語で語る日本事情』（The Japan Times）ほか多数。音楽CDに『My Good Ol' Songs』（アソルハーモニクス / RADIO DAYS）。

### Words and Phrases

1. principal: 主役の  
roughly: おおよそ  
latter: 後者の  
encounter with ~: ~との遭遇

2. ritualistic: 儀式的な  
element: 要素  
evolve into ~: ~に発展する  
aspect: 性質  
divine: 神聖な

3. practice: 慣習  
act out ~: ~を演じる  
paradoxical: 矛盾した  
reveal: ~を見せる

4. prostitute: 遊女  
prohibit: ~を禁止する  
impersonate: ~に扮する  
accurately: 正確に